第一章注解

八尾正文譯

4211

114
A4716
1

京都帝國大學圖書

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

第一章注解

○一　始テ國中ヲ制御セシ𠀋始メテ人民ハ天照太神ノ血統ノ制御ニ因テ安寧幸福ノ潤澤ヲ被ムリシ𠀋及セ其血統ノ降リテ人民ト姻ヲ結フニ因テ合和ノ基礎ヲ堅フセシ𠀋等ノ諸件ハ天照太神ノ弟須佐之男尊記傳ニ見エタリ蓋シ須佐之男尊ハ天ノ追放ヲ受ケテ出雲國ニ降リ此所ニ於テハ頭八尾ノ蛇ヲ退治シテ同地ノ

大藏省

角長手摩乳ノ女クシナダヒメ（稲田姫）ト婚セリ是レヨリ須佐之男ノ尊ノ後裔ハ綿々國内管理ノ權ヲ握リテ第七世ノ間継述シ大國主神ニ至リテ其權ヲ瓊々杵神ニ譲レリ是等ノ宗族ノ後裔ノ外日本ニ於テハ或ハ勲功アリ或ハ内乱ノ好機ニ乗シテ高位ニ昇レル数多ノ宗族アリ

○二

大國主神曽テ経津主ノ神ニ謂テ曰ク我カ治メシ顕露世界ノ事ハ今ヨリ皇孫當ニ治メタマヘ吾ハ將ニ退テ幽冥ノ間ニ之レヲ擁護シ奉ラントスト而シテ將ニ身ヲ幽冥ニ隠サントス時ニ竈神ニ謂テ曰ク此神予ニ代リテ教導シ玉フヘシ予ハ幽閑寂寞之境ニ形ヲ隠シ化ヲ息フテ幽冥ノ方ヨリ此國ヲ護ラント

○三

德川家康ノ遺言第十八條ヲ按スルニ其趣意ハ彼レノ子孫カ其政權ヲ永遠無究ニ維持セントヲ欲スルノ外他ニ目的ノ

在ル所ヲ見出サルヽナリ曰ク「仮令不條理ナル規則ト雖ヒ誤テ五十年ノ間実行サレタルモハ之レヲ改更スルヲ禁ス」ト

○四　遺言第一第二第三條及ヒ其他ノ諸条目ニ於テ家康ハ美且良ナル政府ノ規則ヲ設成セリ而メ第十四條ニ於テハ士ヲ以テ四民ノ長トシ立法ノ全權者ト定メメリ則チ彼レ其條目中ニ云ヘリ……士ハ其意ニ戻ルカ如キ擧動ヲナス徒輩ヲ切捨ルニ於テ妨ケナシ」ト然リ而メ士カ前述ノ遺言第一第二第三條ニ掲載セル國法ヲ保護センカ為メニ其權力ヲ用ヒシ間及ヒ人民ヲ仰歴セサルノ間ハ將軍ノ規則ハ乃チ人民ノ貴重スルモノナリキ然リト雖ヒ士等カ第一第二第三条等ノ義理ヲ重ンセスシテ魯苏ニ人民ヲ抑壓スルニ至テハ則チ侮慢怨恨ノ趣目トナレリ家康預メ此事アルヲ知レリ其遺言第二十三條ノ末文ニ云ヘリ曰ク國ヲ刑御スルノ術ハ事ヲ行フニ當リ宜シ

ク主權者ガ其左右ノ士等ノ意見ヲ容レ
闔議百変以テ實地ニ行フヲ可トス若シ
此敎ニ違フアラハ乃チ爾ハ暗刺セラ
レテ旦帝國ヲ支配スルノ大權モ亦失フ
可ヲ知レト

○五 家康ノ遺言第十五條ノ末文ニ云ヘリ「人
民ハ帝國ノ基礎ナリ」ト

○六 貴族等ハ詮方尽キテ投降セリトノ説ア
リ其レ或ハ然ラン然リト雖モ余ハ未タ
之レカ証據ヲ得サルナリ蓋シ種々ノ事

故アリテ貴族ノ勢威ハ衰ヘタリト雖モ
尚臣下ニ英傑ノ士多シ則チ敵對ヲ為サ
ント欲セハ豈何ノ難キ「アラン」乎故
故ニ確然タル証據ヲ現出シ得ルマテト
余ハ彼貴族等大半ノ投降ハ大國主神ノ
先轍ヲ踐ム然カセサルヲ得サルノ公理
ナルヲ考定セシニ出ルモノト見做スナ
リ

○七 此處ニ載スル慣習トハ乃チ第六葉ニ於
テ解明スルカ如ノ経津主及ヒ武甕雷兩

譯者曰本文中十六葉トアル所ハ原書ノ句譯ニ係ル譯文ニテハ行ヲ改メ、、、、ニ當ル

神ハ大國主神ニ託テ其所領ノ權ヲ擧テ
讓渡センヿヲ要求シ且十六葉ニ於テ將
軍政府カ一般人民ノ幸福安寧ヲ謀ルカ
為メノ名義ヲ仮リテ公卿ノ富貴ヲ減絶
セシ等ノ事ヲ意味スル所以ナリ

○八

千八百八十九年十一月二日ニ於テ「オー
チュンノ」「ビショップ」「ダルレーランド」「セ
ビリゴルト」公告セリ曰ク佛蘭西ノ「クレ
ルチー」(僧徒)ハ數百年前彼等ニ與ヘラレタ
ル領地ノ管轄者ニシテ其所有主ニハ非
サルナリ而メ國民之レヲ要スル「アラ
ハ公債ヲ償フカ為メニ之レヲ賣却ス可
キモノナリト蓋シ右ノ公布ヲ發スルノ
前三ケ月即チ一千七百八十九年八月四
日ニ内諭ヲ下シテ其領地ヲ還付セシメ
ントスレモ從ハス而メ「ダルレーランド」
カ右ノ公布ヲ出スニ及ンテ僧徒等ハ百
方尽カシテ之レニ抵抗ヤリ然レモ「ダル
レーランド」ノ公布終ニ行ハレ其十二月
十九日ニ政府ハ此等ノ領地ヲ四億「フラ

ンタノ價ヲ以テ賣却スベキノ命ヲ下セリ

○九　夢は世ゝ著を忘れて國の為の男、誠を尽すべきなり

大藏省